

1. 未来をつくる教育・子育て支援

(4) 子ども達が多様な文化に触れるために

- ① 本物の文化芸術に触れるために市の教育予算を拡充してはどうか
- ② 2020年東京オリンピック・パラリンピックを見据えて、障がい者と健常者の垣根をとりはらう「心のバリアフリー教育」の充実を求めて

【答弁】

①、②につきましては、関連連しますので、一括してお答えいたします。

子どもたちが質の高い本物の文化芸術に触れたり、様々な分野で活躍されている方々と出合ったりすることは、豊かな感性を養うとともに、発想力やコミュニケーション能力を育成する上において、非常に有意義な取組であります。また、障がいへの理解を深める上においても大切なことであると認識しているところで

す。教育委員会といたしましても、本物の文化芸術に触れる取組や障がい理解に関する取組の重要性を認識し、国、府、市の様々な事業を活用して、心豊かな子どもたちの育成に努めるよう、各校に指導しているところであります。

具体には、文化庁による芸術家の派遣事業や巡回公演事業、府市町村教育委員会共同開催の劇団四季による「こころの劇場」等がございます。

議員ご提案の車いすダンスについても、過去に市内小学校の数校で招聘し、体験活動を通して障がいのある方々とふれあうことで、子どもたちが感動を受け、多くのことを学んだと聞き及んでおります。他にも、パラリンピック出場の花岡伸和氏を招いてご講演いただいた学校もあるなど、各校で取組を進めているところで

す。また、障がいの有無に関わらず、全ての人が豊かに暮らすことができる共生社会を実現する上で大切な「心のバリアフリー」につきましては、幼児教育段階から、「ともに学び、ともに育つ教育」の理念に基づいた教育活動を推進している所

であります。例といたしましては、車イスやアイマスクを使用する体験や点字、ユニバーサルデザインの学習等を行っております。また、障がいのある方との交流や道徳の時間における、「他人との違いを認め理解する」ための取組等を進めております。さらには、今般のオリンピック・パラリンピックで活躍する選手の感動的な話等も講話や教材として活用し、子どもの思いやりの心を育てまいりたいと考えて

おります。本市教育委員会では、これらの取組を支援するため、総合的な学習の時間推進事業や教育研究事業等の中で、講師招聘に係る費用を予算化しております。しかしながら、招聘費用が高額で学校配当予算を大きく上回る場合は、富田林市社会福祉協議会による「善意銀行」等を活用して実施した例もございます。

教育委員会といたしましては、多様な文化に触れることや、障がい理解を深めて「心のバリアフリー」を進めることが、子どもたちの健全育成に資するものであるとの観点に立ち、引き続き学校を指導・支援するとともに、適切な予算のあり方について研究してまいります。